ご自由にお持ちください

雪国

越後魚沼探訪
南魚沼・中魚沼・北魚沼エリアを行く

第11号
2018年12月

❷❸▶ 川端康成と映画「雪国」と湯沢
❹▶ 冬の魚沼 見どころとイベント

魚沼市・南魚沼市・湯沢町
十日町市・津南町 そして周辺

通勤途中でいつも気になる風景が津南小学校前の国道117号から見える外丸方面。国道脇の展望台からは、氷山を照らした朝日がゆっくりと降りて村を浮かび上がらせた。
津南町在住　小林　幸一

季節の花

目木（めぎ）
画・外山康雄

Thanks to Snow　A Dragonfly in Heaven

"I'm from a snow country!" I used to say proudly when I lived in the South, where it never snowed and people often wore T-shirts during the winter. White Christmas was only in picture books and movies. Santa Claus was in red warm suit but came on a red fire engine that was decorated by fairy lights. Only once, on a miraculous Christmas Eve, it snowed enough to stick to the ground. All the neighborhood was altered to be a magical world. I made tiny snowmen like a child.

Years ago, I moved back to my home snow country in early winter but it seemed snow was late. The world was all gray and gloomy. Then on the Christmas Eve, it happened again. It started snowing — heavily. The entire town turned completely white in a few hours. I decided to go to church. It was Christmas Eve, after all. Outside became much brighter because of snow and when I stood in front of the church, I swear I heard the jingling sound from where snowflakes were born up in the sky. It was a blessing for my new life.

Since then, I have made a big snowman taller than I am every year. Snow country, wherever it is on the planet, is filled with magic and fantasy.

雪国育ちです。雪が降ることなどない南に暮らしていた頃、私は出身地を聞かれるとそう答えていた。誇りと憧れを持って。

子供の頃、雪が降る前の季節は辛かった。暗くて冷たいみぞれが降っていて、傘をさす手が冷たかった。

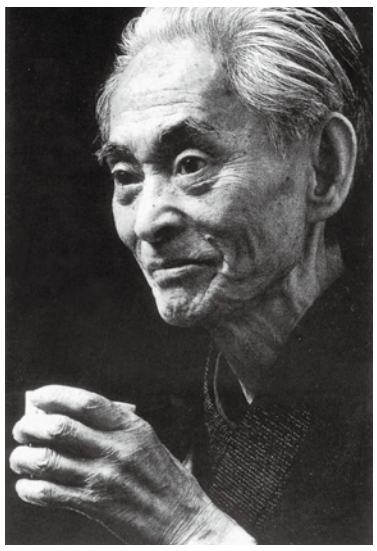
ところがひとたび雪になると、世界は銀色に輝き出す。毛糸の帽子をかぶって外で遊べる。家に入ればあったかいおこたがあって、ストーブがまっ赤に燃えていた。もちろんそれは、母が火をおこして温めてくれていたからなのだけれど、雪の記憶には、その母の優しさとぬくもりが重なっている。

さらにもっと昔、川端康成が「雪国」を書いた昭和初期。小説の中にも寒い、暗いという印象は全くない。あるのは、美しさ。白い雪と赤い炎の幻想の世界。

雪国の冬は、美しく、暖かい。

土井ひとみ　Hitomi Doi

―ノーベル文学賞受賞から五十年―
川端康成と映画「雪国」と湯沢


撮影　秋山庄太郎氏

川端康成（一八九九～一九七二）は、湯沢には昭和九年～十年にかけて五回ほど訪れ、小説『雪國』を執筆した。

世界三十か国以上に翻訳されて、今も湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」には欧米や韓国、台湾などから訪れる人も多いという。

今年、日本人として初のノーベル文学賞受賞から半世紀を迎えた。

小説の舞台となった湯沢町は、あの冒頭の「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」のフレーズですっかり有名になった。

作品はこれまで映画やテレビ、舞台でも多く取り上げられている。

昭和32年、東宝が四年越しの企画で「雪国」の映画化を実現した。脚色八住俊雄、監督豊田四郎に、岸恵子、池部良、八千草薫の競演が話題を呼んだ。

後の湯沢町を全国区に決定づけたことで特筆される。

小説執筆の「かすみの間」

かつての高半旅館

葉子（八千草薫）

島村（池部良）と駒子（岸恵子）

火事シーンの撮影に集まった湯沢町民たち

六十年の時を隔てて
映画「雪国」のおもいで
当時を知るお二人に聞きました

高橋はるみさん　瀧澤榮輔さん

今回、当時を知るお二人に思い出を語ってもらった。

十日町市の織物会社元役員・瀧澤榮輔さん（95歳）と、「雪国の宿高半」の女将・高橋はるみさん（71歳）。久し振りに対面した二人は当時の写真を前に話を弾ませた。

映画の撮影は、昭和31年11月から翌年まで何度かに分けて繰り返された。高橋さんは当時10歳、実家の高半旅館に映画関係者がたびたび訪れていたことを覚えている。

学校から帰ると撮影現場に出掛けたり、家族が対応するのを見ていたので、子供の頃で記憶もおぼろげと語りながらも懐かしく語った。

宿には川端康成ゆかりの部屋も保存され、今もファンの来館者は多い。

昔ばなしに花が咲く

瀧澤さんは、昭和32年2月末に行われた十日町での雪のシーン撮影に立ち会い、ロケ隊の先導役として裏方を務めた。当時は十日町の織物業界が全国宣伝する機運にあったため、雪と織物の街をアピールする絶好の機会と捉えたものだった。

撮影スタッフたちと語り明かしたことや、自身の織物会社に岸恵子さんが母親と一緒に訪れて着物選びをしたことなどが、後年まで映画関係者との交流を続ける基になったという。

高齢になった瀧澤さんの手許に多くの資料が保存されている。岸恵子、池部良、八千草薫…、よく知られた名前が並ぶ。

雪国越後から空間と時間を超えて、人の繋がりが垣間見えた。

岸恵子トークショーで再会
昨年９月、新潟市

雪国撮影では
先導役を務める

芸者「駒子」さんとは？

小説に登場する「駒子」にはモデルとなった女性がいた。芸者「松栄」を名乗っていた小高キクさん（一九一五～一九九九）。三条市生れ、7歳から芸者の修業に出て14～15歳で湯沢に移った。19歳の時、高半旅館で当時36歳の川端康成と出会った。

川端と出会った頃

修業時代、９歳の頃

その後は三条に帰り
仕立屋を営む

１階ギャラリー「駒子の部屋」

湯沢が舞台となった川端康成の小説「雪国」と、「雪国」湯沢の暮らしぶりや歴史を中心とした展示がされています。

１階のギャラリー「雪国」は日本画の世界。小説「雪国」に出てくる様々な場面を描いた14点の作品群が展示され、小説を読む、映画や舞台を見る、といった以上に、心に深く迫ってきます。

小説のヒロイン駒子の部屋も再現されています。

営 午前９時～午後５時
（入館は午後４時30分まで）
休 毎週水曜日（祝日の場合は翌日が休館日）
¥ 大人 500円・子供（小中学生）250円

湯沢町歴史民俗資料館 **雪国館**
〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢354番地1
TEL025-784-3965　FAX025-775-7550
http://www.e-yuzawa.gr.jp/yukigunikan/　E-mail：yukigunikan@e-yuzawa.gr.jp

Special Thanks：取材協力および写真提供
湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」様、「雪国の宿 高半」様

ディスカバー 越後魚沼

キハダ

この原稿を書く前日、魚沼地方で初雪が降り、木々にも雪が降り積もりました。その中に黒い果実を鈴なりにつけた高木がありました。黒い果実をつぶすと、柑橘系の爽やかな香り。ミカン科の高木である「キハダ」という樹木です。

キハダは日本を含む東アジアに自生し、魚沼地方では薬用・染料利用の目的で植栽されてきた樹木の一つです。外側の樹皮（外樹皮）は茶褐色ですが、内側の樹皮（内樹皮）は目が覚めるような黄色であり、そのため「キハダ（黄肌、黄膚、黄檗）」と呼ばれます。内樹皮にはベルベリンを始めとする様々な化学物質が含まれ、このような成分を含むことからキハダは人々の生活の様々な場面に活かされてきました。

例えば、乾燥した内樹皮は「黄柏（オウバク）」という生薬になります。薬局などでご覧になった方も多いかもしれません。強い苦味をもち、健胃や整腸、消炎、鎮痛の目的で、古くから民間薬として用いられてきました。

また、明るい黄色（黄檗色と呼ばれます）が得られるキハダの内樹皮は重要な染料の一つでした。絹、木綿、和紙などの様々な繊維を染色可能です。中世では、緑色を得るために布をキハダで黄色く下染めし、その上で藍染めしたそうです。赤色の発色のためにも類似した手法が用いられたようで、キハダは色々な色を得る基礎として重要だったと言えます。

さらに、キハダで染めると、防虫・抗菌の効果が得られ、繊維が長持ちするようになります。その効能を活かし、日本や中国ではキハダで染めた黄紙を用いて経典などの文書を残してきました。虫に喰われやすい織物の保管にも一役買っていたことでしょう。

キハダは自然観察の場としても優れています。例えば、6月頃に咲く蜜たっぷりの花にはハチやチョウなどの昆虫が集まります。冬には果実目当てに集まる様々な野鳥を観察できます。また、冬に枝を眺めるとピエロの顔のような葉痕（葉がついていた痕跡）がたくさんみつかります。ぜひキハダでの自然観察をお楽しみください。

里山科学館「森の学校」キョロロ

ディスカバー 越後魚沼

じつは、『北越雪譜』を読んでいなくて…③

この季節、テレビやラジオで気象予報士の方が今年は暖冬でしょうと、口々にいう年があります。私たち豪雪地人は聞いてはいますが、スルーしています。

なぜかといいますと、今頃になると雪に備えて必ずある準備をするからです。雪囲い・消雪パイプの点検・車のタイヤ交換（スタットレスに）、準備万端にしておきます。一口に雪といっても、積る量の違いや雪の重さなど、地域差があります。北越雪譜の作者である牧之の生まれた塩沢、牧之は雪の降らない年などないといっていました。それは、江戸時代も今もかわらない意識なのです。

「雪の用意」（初編上、原文より）

前にいへるがごとく、雪降んとするを量り、雪に損ぜられぬ為に屋上に修造を加へ、梁、柱廂家の前の屋翼のを里言にらうかといふ、すなわち廊架なり　其外すべて居室に係る所力弱はこれを補ふ。雪に潰れざる為也。略

雪のある時期を考え、家屋が雪の被害に合わないように、梁や柱、庇など建物の弱いところに手を加えます。いわゆる雪囲いです。昔は一階の窓など板でふさぎました。雪は降り積もると大変重くなるので、押し潰されないためです。

だから雪に対する備えは、降る前に終えてしまわなければなりません。

また、こう続きます。庭の草木も同様です。枝を縛りつけ、大きな木は、丸太や竹をそえて、枝が折れないようにします。低い木や草はムシロなどで覆っておくと書いてあります。

その他、冬はすべてが雪に埋まってしまうので、井戸には小屋をかけ、野菜類は土中に埋めたり、ワラに包んだりして凍みないようにするなど雪の用意が記されています。

雪の準備は万端でしょうか、必ず行う中にもう一つ、日常履く長靴の確認がありました。今年はすでに新調しました。

鈴木牧之記念館

小さな木も大事に雪囲い

雪ありて 魚沼雪化粧

南魚沼［南魚沼市・湯沢町］
白銀の魚沼盆地

1**三国街道塩沢宿「牧之通り」**（南魚沼市塩沢）雁木が美しい通り。江戸時代後期に雪国越後を紹介した『北越雪譜』の著者・鈴木牧之生誕の地で、三国街道の宿場町を彷彿させる街並みが復元されている。問（一社）南魚沼市観光協会☎025-783-3377　2**ロープウェーで白銀の世界へ**（南魚沼市）八海山スキー場、上越国際スキー場、石打丸山スキー場など、長靴で気軽にパノラマが楽しめる。問（一社）南魚沼市観光協会 ☎025-783-3377　3**湯沢冬花火2018**（湯沢町各スキー場）湯沢町内の各スキー場では、ゲレンデを花火がロマンティックに彩る。12月31日19時 神立高原スキー場、23時45分NASPAスキーガーデン。1月1日0時湯沢パークスキー場、20時45分湯沢中里スノーリゾート、など。

北魚沼［魚沼市］
雪山の眺望

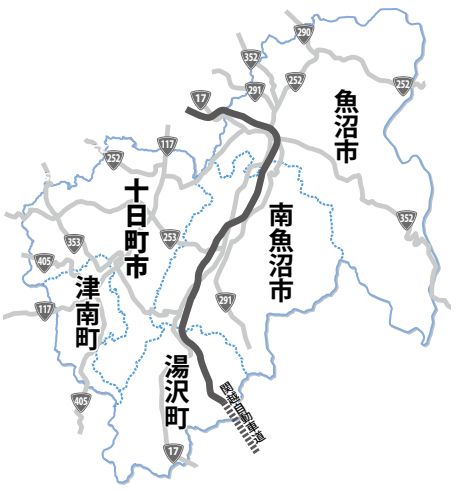
1**白銀の絶景車窓「JR只見線」**（魚沼市）全国紙の「冬景色のきれいなローカル線」に選ばれるなど雪景色の美しい路線。問（一社）魚沼市観光協会 ☎025-792-7300。2**雪壁アート**（魚沼市）豪雪地ならではの雪壁を使ってアートを楽しむのも雪の楽しみ方のひとつ。3**結の灯り―魚沼雪洞まつり**（魚沼市）2月2日㊏のオープニングイベントコンサートから3月中旬まで、市内各地で開催される雪のイベントを「結の灯り」でつなぎ、魚沼の冬を盛り上げる。http://www.yuinoakari.com　問（一社）魚沼市観光協会☎025-792-7300。

1 写真提供／苗場山麓ジオパーク振興協議会

2 写真提供：(一社)十日町市観光協会

中魚沼［十日町市・津南町］
山里の雪散歩

1**河岸段丘の眺望**（津南町・マウンテンパーク津南）全国有数の河岸段丘を一望できる。問苗場山麓ジオパーク振興協議会☎025-765-1600 2**美人林**（十日町市・松之山）雪に覆われたブナ林は神秘的。「森の学校」キョロロ（☎025-595-8311）でスノーシューをレンタルできる（500円）。問十日町市観光協会松之山事務所 ☎025-596-3011 3**神宮寺**（十日町市四日町）曹洞宗の古刹で平安時代に開創された。山門・観音堂・仏像3体は県文化財、境内と山林は市の文化財。問臨泉山　神宮寺 ☎025-752-3765



Information
〈2018年12月–2019年1月〉

秋季特別展示「川端康成ノーベル文学賞受賞から50年」
（湯沢町・歴史民俗資料館雪国館）12月18日㊋まで。川端康成のノーベル文学賞受賞50年目を記念して、生い立ちからノーベル賞受賞までの軌跡のパネル展示のほか、映画「雪国」のロケ風景の写真も展示。問歴史民俗資料館　雪国館☎025-784-3965

スカイランタン打上げ体験
（津南町・ニュー・グリーンピア津南）12月15日（予定）から3月31日まで毎日開催。平日は1回、土曜日は2回打上げ。フロントで受付、スカイランタン1個1,500円。当日17時までに予約が必要。開催時間等くわしくはお問い合せを。問ニュー・グリーンピア津南☎025-765-4611

八坂神社婿の胴上げ
（南魚沼市・八坂神社）1月6日㊐。春祭りの夜に、前年婿になった人や嫁をもらった新郎を胴上げする。400年以上前に当時の坂戸城主・長尾政景公が立派な農兵を育てるために始めた奇習。問NPO六日町観光協会☎025-770-1173

節季市（チンコロ市）
（十日町市諏訪町通り）1月10日・15日・20日・25日。農家の人々が竹やワラなどで作った生活用品などを持ち寄り開いていた市が由来。犬や十二支を型どった米粉細工の「チンコロ」が人気。問十日町市観光交流課☎025-757-3100

奇祭・大白倉バイトウ
（十日町市大白倉）1月14日㊊。ケヤキとワラで作った巨大な小屋（バイトウ）を盛大に燃やし、無病息災・五穀豊穣を願い占う小正月の伝統行事。問（一社）十日町市観光協会☎025-757-3345

奇祭・むこ投げ・すみ塗り
（十日町市・松之山温泉薬師堂）1月15日㊋。前年に結婚した花婿を薬師堂境内の崖の上から投げ落とす祝福行事。その後「すみ塗り」も行われる。問（一社）日町市観光協会松之山事務所☎025-596-3011

第69回 南魚沼市雪まつり
（南魚沼市・六日町大橋下特設会場）2月9日㊏・10日㊐「ほんやら洞」や、ステージショーなど、楽しいイベントが盛りだくさん。問南魚沼市雪まつり実行委員会☎025-783-3377

小出国際雪合戦大会
（魚沼市・小出郷文化会館前 雪のコロシアム）2月10日㊐。戦国時代に世界最古の雪合戦が行われた？という伝説のもと「国際雪合戦大会」を開催。問小出雪まつり実行委員会事務局（魚沼市商工観光課）☎025-792-9754

雪中花水祝
（魚沼市・八幡宮境内）2月11日㊊　前年に結婚した新婿に冷水をかけて、子宝や子供の成長、夫婦和合を祈る冬の奇祭。問（一社）魚沼市観光協会☎025-792-7300

江戸末期の塩沢の文人、鈴木牧之（ぼくし）は『北越雪譜』を著して雪国の姿を江戸に知らしめました。そこに曰く「雪中に糸となし、雪中に織り、雪水にそそぎ、雪上に晒す。雪ありて縮あり、されば越後縮は雪と人と気力相半ばして、名産の名あり。魚沼郡の雪は縮の親といふべし」

この中から紙名をいただきました。

まさにこのエリアは、織物に限らずあらゆる事柄が「雪ありて」こそ語れる魅力に溢れているようです。

これらの地域を舞台として自然風土、歴史文化、産業、まちづくり等の情報発信を進めて参ります。

本紙は、フリーペーパーです。配置してある場所でお手にとって、お持ちいただきたいと思います。

隔月刊で、偶数月に発行されます。

二万部を超える部数を、越後魚沼地域と、関係の深い東京方面等にも届けております。

今回号は如何でございましたか。今後ともご愛読いただきたいと思います。

また、ご感想などお寄せくださいますなら励みとなりますのでよろしくお願いいたします。

●編集部／株式会社みらい内 〒948-0065 新潟県十日町市高田町3丁目304-2
☎025-752-0350　●メール yukiarite@gmail.com
●発行所／北越印刷株式会社六日町営業所
〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479番地3 テルエルクボタビル3F
☎025-788-0891
本　社：新潟県長岡市南陽2丁目949-8
営業所：東京・新潟・上越・六日町

事業所訪問

自然に寄り添い 未来を見据える

プラスチックゴミ問題が大きく取沙汰される昨今、
バイオマス事業への関心は日に日に高まっている。
ここ、南魚沼にも、バイオマス資源を活用して環境問題に立ち向かう
新進気鋭の企業がある。

お米が51%入ったプラスチック樹脂（カラー版）

お米のままごとセット・南魚沼市限定版
（おさらとおにぎり増量版）好評発売中！

お問合せは当社まで

古米や木材等の自然由来の資源や、コーヒー滓や茶葉等の家庭ゴミを活用したバイオマスプラスチック樹脂を研究開発から製造販売まで手掛けている。特に米からできたプラスチック樹脂「ライスレジン」は、その安全性と安心感から乳幼児玩具メーカーが原材料の一部に採用し、ピープル（バンダイグループ）より「お米のままごとセット・南魚沼市限定版」の販売を開始した。手に取ると煎餅のようなやわらかな香りがほんのり漂う“米どころ”南魚沼らしいおもちゃだ。

世界的に「バイオマスプラスチック」活用への機運が高まる中、玩具類の他にも文房具や袋等に使用され、国内・海外共に問い合わせが増えているという。「Made in MINAMIUONUMAのバイオマスプラスチック造りに精進し、より一層、地域貢献の出来る企業を目指して参ります」と、地元愛を胸に世界へ羽ばたこうとしている。

株式会社 バイオマスレジン南魚沼
Biomass Resin Minamiuonuma Co., Ltd.
〒949-7104 新潟県南魚沼市寺尾1300番地
TEL025-775-7155　FAX025-775-7713　http://www.biomass-resin.com/